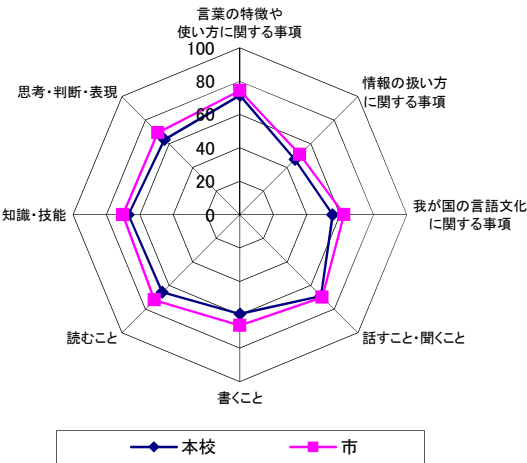


宇都宮市立五代小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.5	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	46.8	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	55.6	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	68.8	69.9	69.7
	書くこと	59.4	66.4	64.6
	読むこと	65.7	72.3	71.0
観点別	知識・技能	66.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	63.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

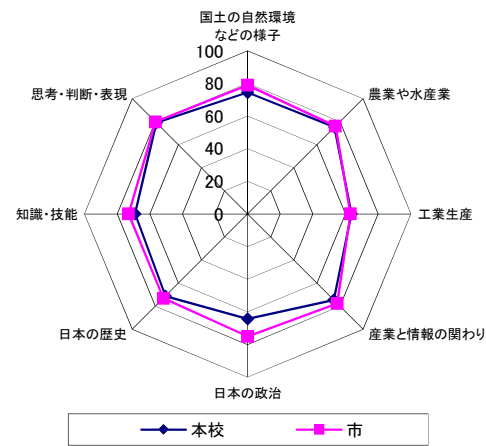
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○漢字を読んだり書いたりする問題では、ほとんどの正解率が市の平均より高く、繰り返し練習に取り組んだ成果が表れてきていると考えられる。 ●三字の熟語の構成についての問題では、正答率が市の平均より低い。	・継続的に漢字の読み・書きを繰り返し定着を図る。 ・熟語の意味や構成について調べたり、活用したりする活動を積極的に取り入れる。 ・時と場に応じた言葉遣いができるよう、学校生活の中で誤った使い方をしたときには、細やかに指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理したり、グラフを読み取ったりする問題では、正答率が市の平均より低い。	・日常的に文章の情報を整理したり、グラフを読み取って活用する活動を取り入れ、その良さを実感できるように支援する。 ・目的に応じて文章を書く際には、複数の情報同士の関連性を考えさせたり、比較させたりする活動を通して、情報の扱い方の基本的な力を身に付ける時間を設定していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○尊敬語と謙譲語を扱う問題では、ほとんどの正答率が市の平均より高い。 ●漢字の由来についての問題では、正答率が市の平均より低い。	・尊敬語と謙譲語については、使い方や相手に応じて使えるように支援していく。 ・新単元において、意味調べを行うとともに、読書を推奨し、語彙をふやす取り組みを設定する。
話すこと・聞くこと	平均正答率が市の平均と同程度であるが、わずかに低い。 ○話し手の目的に応じて内容を捉えたり、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う内容を扱う問題では、ほとんどの正解率が市の平均よりわずかに高い。 ●計画的に話し合い、考えを広げる工夫を扱う問題では、正解率が市の平均より低い。	・コロナ禍に配慮した意見交換や討論など話し合いの場を設定し、相手の意見や自分の考えと比較しながら聞く経験が積めるように支援していく。 ・司会者や立場を明確にした話し合いを体験させたり、話し方・聞きかたの基本的な力を身に付けられる場を積極的に取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○指定された長さで文章を書いたり、グラフから読み取った事実を書いたりする問題では、他の文章を書く問題よりも正解率が高い。 ●段落の役割について文章を書いたり、事実を基に自分の意見を明確に書いたりする問題では、正解率が市の平均より低く、課題が見られる。	・自分の意見を明確に伝えるための工夫の有無が、どのような違いを生むのかを比較させたり、どんな場面での工夫が効果を発揮するのかを考えさせたりすることで、理解を深められるように取り組みを工夫していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●登場人物の心情や行動について描写を基に捉えたり、まとめた感想を共有して自分の考えを広げる問題では、正答率が市の平均より低く課題が残る。	・物語文の学習では、場面ごとに内容を読み取ったり、登場人物の心情をまとめたりする活動を大切にし、叙述をもとに正しく読み取れるように支援していく。 ・説明文の学習では、文章を読み取り、要旨をまとめる活動や文章構成を考えさせる活動を多く取り入れ、内容や構成を正確に読み取る力が伸びるように取り組みを工夫していく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.4	78.9	75.4
	農業や水産業	75.3	76.1	71.2
	工業生産	63.6	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	74.5	77.6	59.7
	日本の政治	64.4	75.0	79.3
観点別	日本の歴史	71.2	73.1	72.8
	知識・技能	69.0	73.0	71.4
	思考・判断・表現	79.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

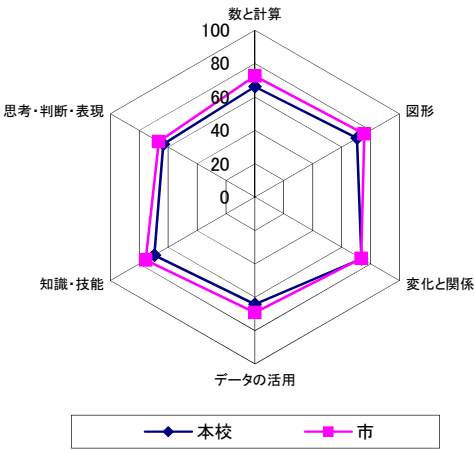
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均正答率と比べ、低い。 ●日本の周辺の海洋名を問う問題での正答率が低い。 ●日本の周辺の国の国旗と位置を問う問題での正答率が低い。 ●日本の主な地形の名称と位置をもとに、地図を読み取る問題での正答率が少し低い。	・地図帳を活用し、地形や川、山地などだけでなく、世界の国々についても目を向けて、知識を広げられるようにする。 ・日本の気候について、地形との関係を捉えながら理解できるよう指導していく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率と同程度であるが、やや低い。 ○都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題での正答率が高い。 ○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断する問題での正答率が高い。 ●日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る問題の正答率が低い。	・資料から課題を読み取ることができるよう、引き続き資料を読み取り、自分で考えたことを表現したり、友達の考えと比較したり関連付けたりする活動を多く設定していく。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率と比べ、やや高い。 ○自動車工場の作業工程を問う問題での正答率が高い。 ○大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題の正答率が高い。 ●日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る問題の正答率は低い。	・調べたことをもとに、自分で考えたことを表現したり友達の考えと比較したり関連付けたりする活動を多く設定していく。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均正答率と比べ、低い。 ●インターネットを利用するときの注意点について理解している問題での正答率が低い。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題の正答率が低い。	・児童にとって身近な資料を使用し、生活の中の情報について、関心をもって追究したり考えたりすることができるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均正答率と比べて、低い。 ●日本国憲法の三原則や国会のしくみについての問題での正答率が低い。 ●裁判の仕組みについて、資料を読み取る問題の正答率が低い。	・日本国憲法の学習の際、写真資料を活用しながらしっかりと捉えられるよう指導していく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率と比べ、低い。 ○弥生時代のむらの様子や人骨の資料に着目して、弥生時代の人々のくらしを捉え、表現する問題の正答率が高い。 ○室町時代の文化についての問題での正答率が高い。 ●織田信長の勢力拡大について、資料をもとに判断する問題や、江戸時代の主な大名の配置について、資料を読み取る問題の正答率が低い。	・歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績などを表や図を用いて整理してまとめ、基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.2	72.6	73.1
	図形	70.6	75.7	74.7
	変化と関係	73.8	73.6	66.1
	データの活用	64.2	69.2	70.7
観点別	知識・技能	69.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.4	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

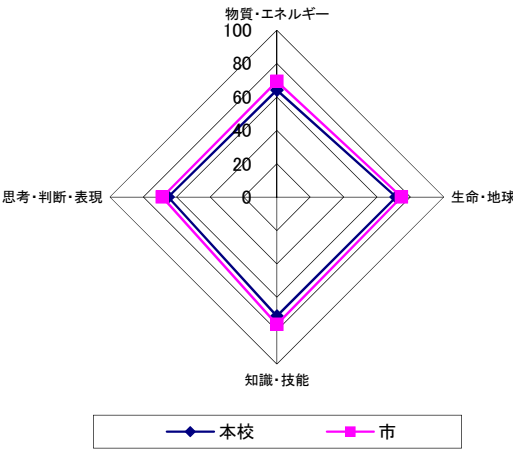
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●小数や分数の計算や文字の式に関するそれぞれの問題の正答率は、市の平均正答率より低く課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数同士や分数同士の計算方法や文字式の立て方や答えの求め方等を復習し、授業や朝の学習を用いて練習問題を繰り返し取り組ませることで技能の定着を図る。 ・技能に個人差が見られるため、個に応じた支援を行っていく。
図形	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○展開図を組み立てたときに重なる頂点を選ぶ問題や、合同な三角形を作図する問題の正答率は、市の正答率より低い。●線対称な図形の対応する点を見つける問題の正答率は、市の正答率より低い。	・実際に展開図を描かせ、それを組み立てる活動に繰り返し取り組ませることで図形や立体の構成の基礎定着を図る。 ・図形の面積や立体の体積の求め方を繰り返し復習し、基礎を用いた応用問題に取り組める時間を設ける。
変化と関係	平均正答率は、市の平均正答率と同等であるが、わずかに高い。 ○表から面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は、市の平均より高い。 ●半分が何%かを答える問題の正答率は、市の平均より低い。	・すでに分かっている情報を活用して求める活動を毎時間意識させて練習問題に繰り返し取り組ませるようにする。 ・「くらべる量 もとにする量 割合」の求め方については、言葉の意味を確認したうえで、数直線などの図を用いて、数値の関係やもとめる事項を正しく理解し、見通しをもって問題に取り組めるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○代表値を用いて、記録が高いかどうかを記述する問題の正答率は全体的に低いが、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成させたりする問題の正答率は、市の正答率より低い。	・代表値を用いて説明する力をはぐむために、他教科との連携を図った指導を行っていく。 ・度数分布表の見方や作成の仕方を繰り返し練習を継続していくとともに、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.1	69.3	65.7
	生命・地球	71.4	74.7	77.8
観点別	知識・技能	71.2	76.2	76.4
	思考・判断・表現	65.2	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。 ○物の燃え方の分野で、火を用いた実験で注意することや、空気にふくまれている気体で、物を燃やすはたらき考える問題では、市の平均よりやや高い。 ●電流のはたらきや物のとけ方を問う問題の正答率が、市の平均よりも大幅に低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、予想・実験・結果の考察の時間を十分に取 見通しをもって活動する中で、科学的な見方や考え方を深められるように支援していく。 ・実験を行う際は使用の目的や器具の操作方法を丁寧に示していく。また、すべての児童が実際に操作を行えるよう配慮し、知識・技能の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○植物のつくりとはたらきの分野の正答率が、全体的に高く、市の平均より高いか、ほぼ同じである。 ●生物とかんきょうの分野で、生物がとり入れたり出したりする気体の流れを問う問題の正答率は27.8%で、市の平均と比べ15ポイント以上低い。 ○食物連鎖に関する2つの問題の正答率は88%と高く、市の平均をそれぞれ上回っている。	・実験や調べたことを図や絵を使ってレポート等にまとめる活動を行い、知識・技能の定着を図る。 ・模型や動画の視聴など、視覚的に捉えられるような指導の工夫により、理解を深めらるようにする。

宇都宮市立五代小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・粘り強く自力解決に取り組 み、より良く解決できる手立 ての工夫	・授業の中で働かせたい見方・考え方をしっ かりと確認しておき、思考の過程や根拠を表現 させるための手立てを工夫する。 ・「分かりやすく伝える」という目的意識、相手 意識をもたせるなど、よりよい方法で表現する ことの大切さを理解できるようにする。	・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均を下 回っている。 ・記述式の設定で無解答がある。粘り強く自力解決しよ うとする意欲と、それを支える基礎・基本の内容の確実な 習得が必要と考えられる。
基礎・基本、既習内容の定着	・朝の学習の時間、授業での復習・定着の場 を活用し、基礎的な内容の定着を図る。 ・算数(高学年)での習熟度別(少人数)指導 において、個に応じたの指導を充実させる。 ・家庭学習の内容の検討や進め方の工夫(学 年に応じた課題の検討や自主学習の指導)を 行い、各種便り等で保護者への啓発を図る。	・朝の学習の時間、授業での復習・定着の場を活用し、 基礎的な内容の定着を図る。 ・算数(高学年)では、習熟度別(少人数)指導において、 個に応じたの指導を充実させる。 ・家庭学習の内容の検討や進め方の工夫(学年に応じた 課題の検討や自主学習の指導)を行い、各種便り等で保 護者への啓発を図る。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・児童が関心をもって取り組める課題設定を工夫する。学習問題・めあてに基づいたまとめや振り返りの時間を十分に確保し、授業の終末の充実を図ることで、学習内容の確実な定着を図る。
- ・話し合い活動を積極的に取り入れる。話し合いの過程で、理由を挙げながら意見を述べたり、友達の意見と自身の考えを比べながら聞いたりしながら、自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。学級活動、児童会活動など様々な課題解決場面での話し合い活動の積極的、意図的な設定をする。
- ・家庭学習の充実(質的・量的な向上)を目指し、学年に応じた課題の検討や自主学習の指導を図る。保護者への啓発を図り、学校・家庭が協力して支援できるようにする。
- ・教科担任制の導入に向けての担当授業の調整、算数での習熟度別(少人数)指導の充実を図る。